



第4章

文化芸術がもっと身近になるための5つのこと

1 第2期八王子市文化芸術ビジョンの全体像

第2期八王子市文化芸術ビジョンでは、八王子市文化芸術振興条例を基に「文化芸術が身近にあり、豊かで潤いのある生活を実現するまち」を基本理念として設定しました。この理念の実現に向け、5つの方向性に沿って各施策を展開します。

基本理念

目指す姿

文化芸術がもっと身近になるための **5** つのこと



2 5つの方向性について

八王子市文化芸術ビジョンでは5つの方向性を設定しており、それぞれの取組を通じて目指す姿の実現を図ります。

第1期ビジョンでは、生活圏で気軽に文化芸術に触れることができることを目指すため、「とどける」を方向性の1つに設定していました。しかし、文化芸術への関心を高めるための「つたえる」と、文化芸術に触れる機会や場を提供するための「こたえる」においても、身近なところで文化芸術に触れる取組が必要であることから、第2期ビジョンでは「とどける」を「つたえる」、「こたえる」に統合することとしました。

また、文化芸術を観光や産業をはじめとした幅広い分野において活用することで、まちの賑わいや地域の課題解決につなげるという観点から、「ひろげる」を新たに設置しました。

旧(第1期)

文化芸術そのものの振興

「八王子市文化芸術ビジョンの5つの方向性」

No.	方向性	将来像
1	ささえる	創作活動を「行っています」
2	そだてる	次世代の文化芸術の「担い手となっています」
3	つたえる	文化芸術に「興味をもっています」
4	こたえる	質の高い文化芸術を「観・聴きしています」
5	とどける	身近な場所で文化芸術に「触れています」

新(第2期)

文化芸術そのものの振興に加え、幅広い分野との連携や文化芸術と経済の好循環などを加味した内容

「第2期八王子市文化芸術ビジョンの5つの方向性」

No.	方向性	2033年の目指す姿
1	ささえる	市民や企業、行政などの多様な主体が連携して文化芸術活動が行われています
2	そだてる	次世代の文化芸術の担い手が育っています
3	つたえる	文化芸術への関心が高まっています
4	こたえる	質が高く多彩な文化芸術に触れています
5	ひろげる	文化芸術を活用しまちが賑わっています

統合

新規

01



市民サポーターがワークショップをサポートしている様子
(八王子芸術祭)

方向性 1 文化芸術活動を

「ささえる」

年齢や国籍、障害の有無に関わらず、それぞれの個性を活かして関心のある文化芸術活動を継続して行うためには、生活圏に参加しやすい発表の機会があることが必要です。

第1期ビジョンでは、市民や企業、行政など、多様な主体が連携して文化芸術活動を支えるという視点を明確にしていまなかったが、国の「文化芸術推進基本計画」や「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の制定などにより、多様な主体の連携による自律的な活動の推進や多様性の尊重が重要視されたことから、新たに市民、企業、行政などの多様な主体が連携して文化芸術活動を推進していく視点を加えました。

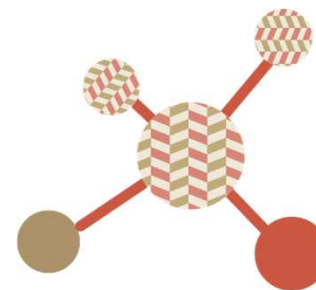
誰もが文化芸術活動に意欲を持てるよう、様々な「ささえる」取組を展開します。



誰もが文化芸術活動に
取り組むことができ、
その成果を発表できる
環境づくりが必要です

文化芸術活動団体向けアンケートにおいて、活動をする上で求めるものとして、約6割が「発表できる機会の充実」と回答しています。また、市民向けアンケートや美術系大学の学生向けアンケートにおいても、自由意見の中で、創作活動への意欲や発表の機会を求める意見が多くみられ、発表機会の充実を望む傾向があると考えられます。

現
状
と
課
題



多様な主体が連携した
取組が求められています

文化芸術基本法では、文化芸術が生み出す多様な価値を、継承・発展・創造へとつなげていくために、観光や福祉、まちづくり、教育、産業などの関連分野との有機的な連携を図るよう求めています。文化芸術活動を効果的に「ささえる」ためには、市民や企業、行政など様々な主体が、連携しあって取り組んでいく必要があります。

指標

八王子芸術祭の市民サポーターなど文化芸術活動を支えている人の人数



2033年の目指す姿

2033

≡
市民や企業、行政などの
多様な主体が連携して
文化芸術活動が
行われています

施策の方向性 1

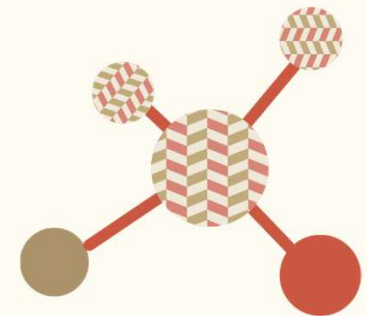
誰もが文化芸術活動の
成果を発表できる
機会の充実



新規

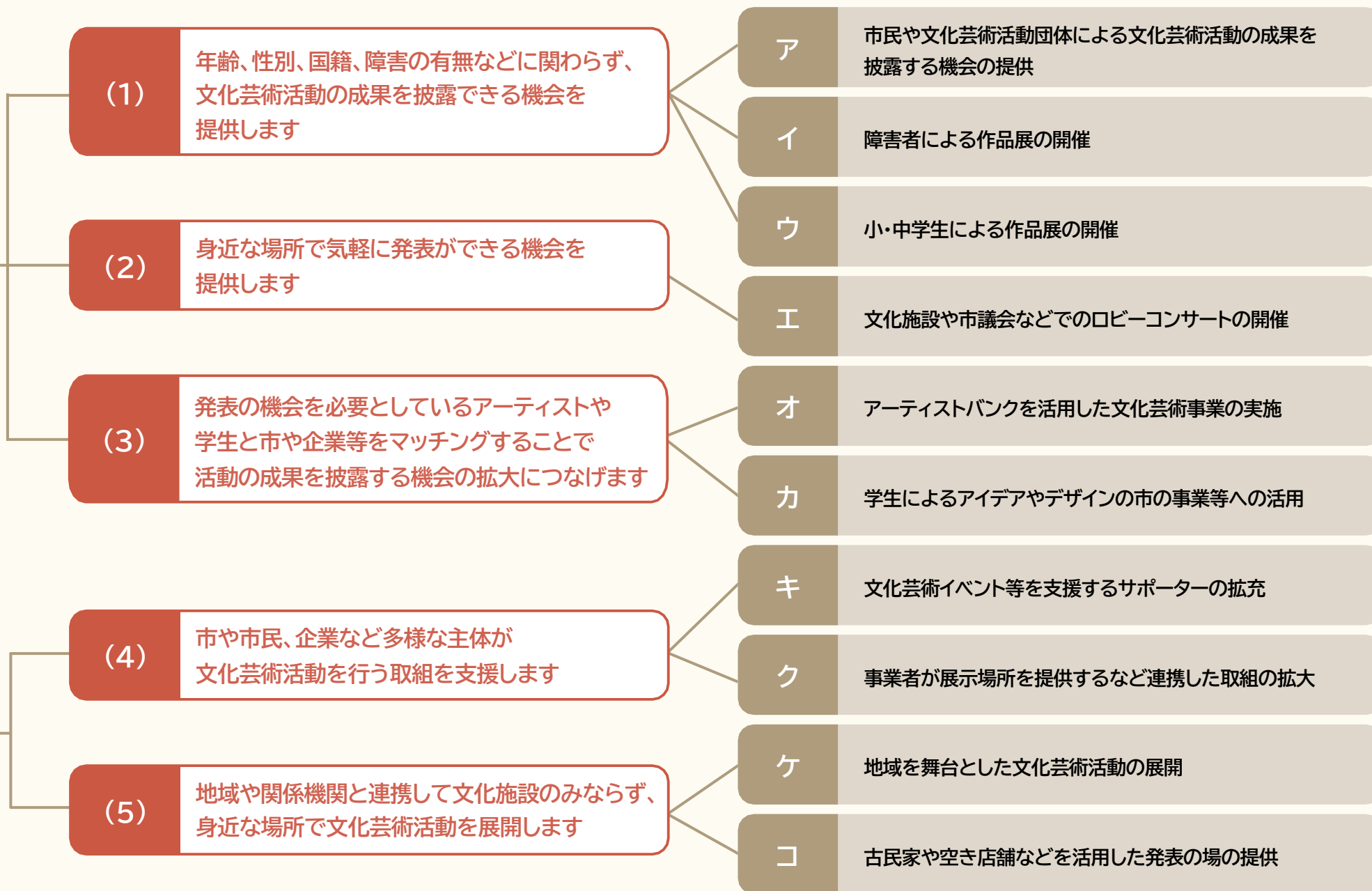
施策の方向性 2

市や関係機関、
企業などと連携した
多様な文化芸術活動の推進



主な施策

取組例



02



子どもの楽器体験の様子(トイ・トイ オーケストラ！)

方向性 2 未来に向けて

「そだてる」

文化芸術を後世に継承していくためには、文化芸術活動の担い手を育成していくことが重要です。

第2期八王子市文化芸術ビジョンでは、文化芸術活動に携わる人だけでなく、文化芸術活動を支える支援者も含めて文化芸術活動の「担い手」と捉えており、それらの人たちを「そだてる」ことが、これからの文化芸術の発展に欠かせない取組です。

また、子どもたちの創造性や社会性などを育むために、文化芸術活動に参加する機会の充実や、興味をもつきっかけになる取組が必要です。

加えて、人生100年時代を迎え、子どもたちに限らず誰もが文化芸術活動に参加しやすい仕組みづくりが必要です。

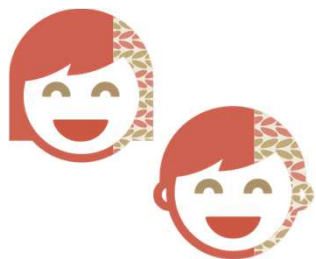
文化芸術活動を
支える人たちへの
支援も必要です



文化芸術活動を継続していくためには、文化芸術を「創る」側を育てる取組とともに、「支える」側も育てていく必要があります。企業等による経済的な支援のほか、市民ボランティアによる活動支援、アーティストによるノウハウの継承の取組など、様々な手法や切り口で文化芸術活動を支える取組の充実が必要です。

現
状
と
課
題

子どもをはじめ、
すべての世代に
文化芸術に興味を
持つてもらおう
取組が必要です



子ども向けアンケートでは、文化芸術の鑑賞率は7割を超えています。一方で、学校以外の時間で何をしていますかとの設問では「何もやっていない」と回答した人のうち約3割は、その理由として「興味がない」からとしています。

また、市民向けアンケートの自由記述において、子ども向けのイベントをもっと設けてほしいという回答が多く見られました。

子どもが文化芸術に触れる機会を持つことや興味を持ってもらうための取組は、健全な育成だけでなく、将来の担い手育成の観点からも重要です。他にも、子どもに限らず高齢者を含めた幅広い年代への取組も必要となっています。

指標 文化芸術活動に参加もしくは鑑賞する
機会がある人の割合

令和15年度(2033年度)

令和6年度(2024年度)

現状

50.9%

目標

75%

(1年に1回以上文化芸術活動に参加もしくは鑑賞していると回答した人の割合)

コラム とうきょう すくわくプログラム

東京都は、幼稚園や保育所等を対象に、乳幼児の「伸びる・育つ(すくすく)」と「好奇心・探求心(わくわく)」を育む幼保共通のプログラム「とうきょう すくわくプログラム」を推進しており、本市においても、多くの施設で取組が進められています。施設ごとに独自のプロセスを展開し、「音」や「色」など様々なテーマに沿って子どもの探求心を育むとともに、実体験を通じた学びにより、非認知能力を高めることを目指しています。



保育園での色遊び体験

2033年の目指す姿

2033

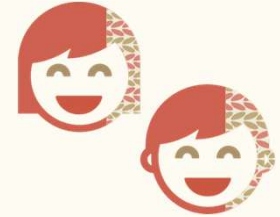
≡
次世代の

文化芸術の担い手が

育っています

施策の方向性 1

子どもたちが
多彩な文化芸術に
触れる機会の提供



施策の方向性 2

文化芸術活動に
気軽に参加できる
きっかけづくり



施策の方向性 3

歴史や伝統文化を
次世代に保存・継承する
取組の推進



新規

施策の方向性 4

文化芸術活動を支える
支援者の発掘・育成



主な施策

取組例



03

方向性 **3** 良さ・楽しさを

「つたえる」

文化芸術は、美術や音楽だけでなく、アニメやゲーム、食文化なども含まれており、より身近で多様な分野にまで及びます。

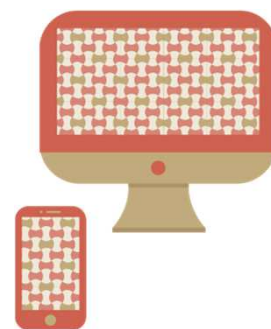
また、近年ではデジタル技術が発展し、プロジェクションマッピングやオンラインでの公演の配信など、文化芸術の分野においても、デジタル技術の活用が進んでいます。

これまで文化芸術に触れる機会が少なかったと感じている方や、触れていること自体を意識していなかった方にも、その楽しさや魅力を実感、意識してもらえるよう、発信方法を工夫して文化芸術の魅力を「つたえる」取組を進めます。



コロナ禍におけるオンライン配信の様子
(染物ダンスパフォーマンス「SHIKISAI」(伝承のたまてばこ))

文化芸術のイメージを
広げるとともに
デジタル技術を活
用した
取組が必要です

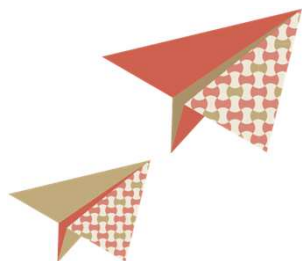


文化芸術基本法への改正により、「文化芸術」の範囲が広がった一方、その認識がまだ十分に浸透していない状況が見受けられ、このことが市民が文化芸術を身近に感じられていない要因の一つになっていると推察されます。

また、デジタル技術の発展により、オンラインコンテンツが充実するなど、文化芸術の楽しみ方が広がり、より身近になっている状況を踏まえ、情報発信をより工夫して行うことが必要です。

現状と課題

文化芸術への関心を
効果的に高めるため
情報発信の方法を
工夫する必要があります
あります



市民向けアンケートにおいて、文化芸術活動や鑑賞をしなかった理由として、「イベントなどの情報が得られなかった」と回答した人が一定数いることや、自由記述で「イベントが終わってからイベントがあったことを知ることが多い」などの意見があることから、情報発信をより効果的に行う必要があります。

情報の入手方法は、年代により違いが見られ、全体では「広報はちおうじ」が多いものの、若年層では「SNS」を活用する人が多くみられます。情報の入手方法は多様化しており、発信の方法やタイミングを工夫することが必要です。

指標 文化芸術が八王子の魅力だと
感じている人の割合

現状

令和6年度(2024年度)

9.4%



目標

令和15年度(2033年度)

25%

コラム

八王子ならではの文化芸術を活かした魅力発信と
地域活性化

八王子には、日本遺産「桑都物語」をはじめとした、多様な文化的資源が息づいています。こうした価値を地域の魅力向上へとつなげる取組は、文化芸術に関する活動の促進にもつながります。高尾山では、山岳信仰、修験文化を体験できるコンテンツを磨き上げ、オーディオガイドや体験プログラムの充実により文化観光を促進しています。中心市街地では、江戸文化を核にした「八王子桑都千景」が、地域の多様な主体によって展開され、まちの魅力を高めています。こうした取組を通じて、八王子ならではの文化芸術の魅力を国内外へ発信していきます。



桑都テラスの和傘を
装飾したライトアップ

2033年の目指す姿

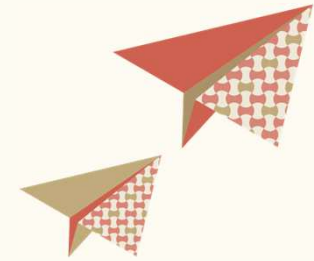
2033



文化芸術への関心が
高まっています

施策の方向性 1

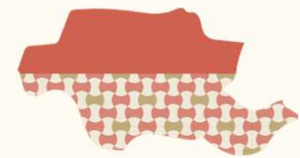
文化芸術に対する
理解を深め関心を高める
情報発信の展開



新規

施策の方向性 2

八王子独自の
文化的魅力を発信する
取組の推進



新規 施策

施策の方向性 3

デジタル技術を用いた
多様な表現方法の活用



主な施策

取組例

(1)

年代や属性を考慮して、
文化芸術事業がターゲットとする層に
届く情報発信を行います

ア

従来のチラシ、広報紙のほかSNSなど幅広い発信の強化

イ

市や関係機関の情報紙、ホームページなどでの
多岐にわたる文化芸術活動の発信

(2)

多岐にわたる文化芸術の範囲について情報を
発信し、文化芸術の認識を広げていきます

ウ

歴史・郷土ミュージアムなどを通じた八王子の
魅力の発信

エ

日本遺産ストーリーを活用した体験プログラムなどによる
八王子の魅力の発信

(3)

日本遺産をはじめとした八王子の文化的資源
を活用して、八王子の魅力発信します

オ

食文化ミュージアムを活用した
八王子の食文化の発信に向けた取組の検討

(4)

八王子の食文化の魅力発信します

カ

企業との連携を通じた八王子の食文化の魅力発信の強化

(5)

デジタル技術を活用し、文化芸術を気軽に楽し
める機会を提供します

キ

文化施設での公演等をオンラインで配信する機能の活用

ク

アプリ等による日本遺産ストーリーや構成文化財の解説
など、気軽に文化芸術の魅力を知ってもらう仕組みの検討

ケ

図書館での電子書籍やミュージックライブラリーなど
非来館型サービスの充実

04



八王子車人形 五人三番叟
(いちょうホールリニューアルオープン こけら落とし公演)

方向性 4 観たい・聴きたいに

こたえる

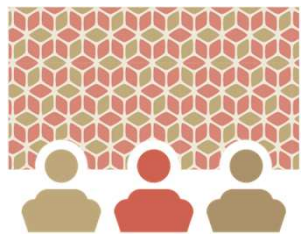
年齢、障害の有無、文化の違い、
経済的状況などに関わらず、
文化芸術を身近に感じられるようにするためには、
文化施設はもとより、
身近な場所で気軽に鑑賞、参加、体験できる
機会があることが必要です。

八王子には日本遺産をはじめとした
多様な文化・伝統があり、
また、令和8年(2026年)には
八王子中央公園(桑都の杜)に
歴史・郷土ミュージアムがオープンするなど、
文化的な資源が豊富にあります。

こうした八王子ならではの文化的資源を活かして、
特色ある様々な鑑賞機会を提供します。

現状と課題

身近な場所で
文化芸術を
鑑賞できる機会が
求められています

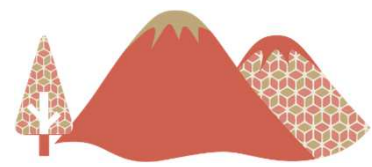


市民向けアンケートでは、約76%の人が文化芸術イベントに参加するうえで「イベントの開催場所(近所で行われるかなど)」を重視すると回答し、自由記述でも「住まいの近くでイベントが行われていない」といった意見がみられました。

このことから、文化施設だけでなく、広場や公園など、身近な場所で気軽に文化芸術を鑑賞、参加、体験できる機会を創出することが必要です。

文化施設の
適切な管理や整備
が必要です

市民向けアンケートで、八王子の文化芸術について望ましい姿を聞いたところ「文化施設の充実」との回答が2番目に多く見られました。芸術文化会館(いちようホール)は大規模改修工事を終え、令和7年(2025年)7月はニューアルオープンしましたが、今後、南大沢文化会館や市民会館(J:COMホール八王子)など、計画的な改修が必要です。



八王子ならではの
文化的資源を
活かす取組が
必要です

本市には、歴史的建造物や伝統芸能など多様な文化的資源が存在しています。一方、日本遺産の認定や「道の駅八王子滝山」の食文化ミュージアム認定、歴史・郷土ミュージアムの開館など、文化的な資源を取り巻く環境は変化し続けています。市民向けアンケートでは、この1年間で鑑賞したものについて約27%の人が「歴史的な建物や遺跡」と回答しており、また、「八王子の伝統的な芸能や祭り」などの回答も多く見られることから、歴史的な文化資源への関心の高さがうかがえます。

八王子ならではの豊かな文化的資源を活かし、観光や賑わいづくりにつなげることが必要です。

指標

文化芸術イベント及び文化芸術関連施設への
来場者数



2033年の目指す姿

2033

質が高く

多彩な文化芸術に

触れています

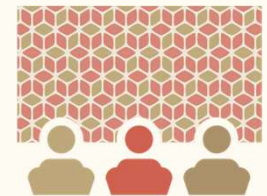
施策の方向性 1

文化施設の
適切な管理・整備



施策の方向性 2

身近な場所で
文化芸術を楽しめる
取組の充実



新規

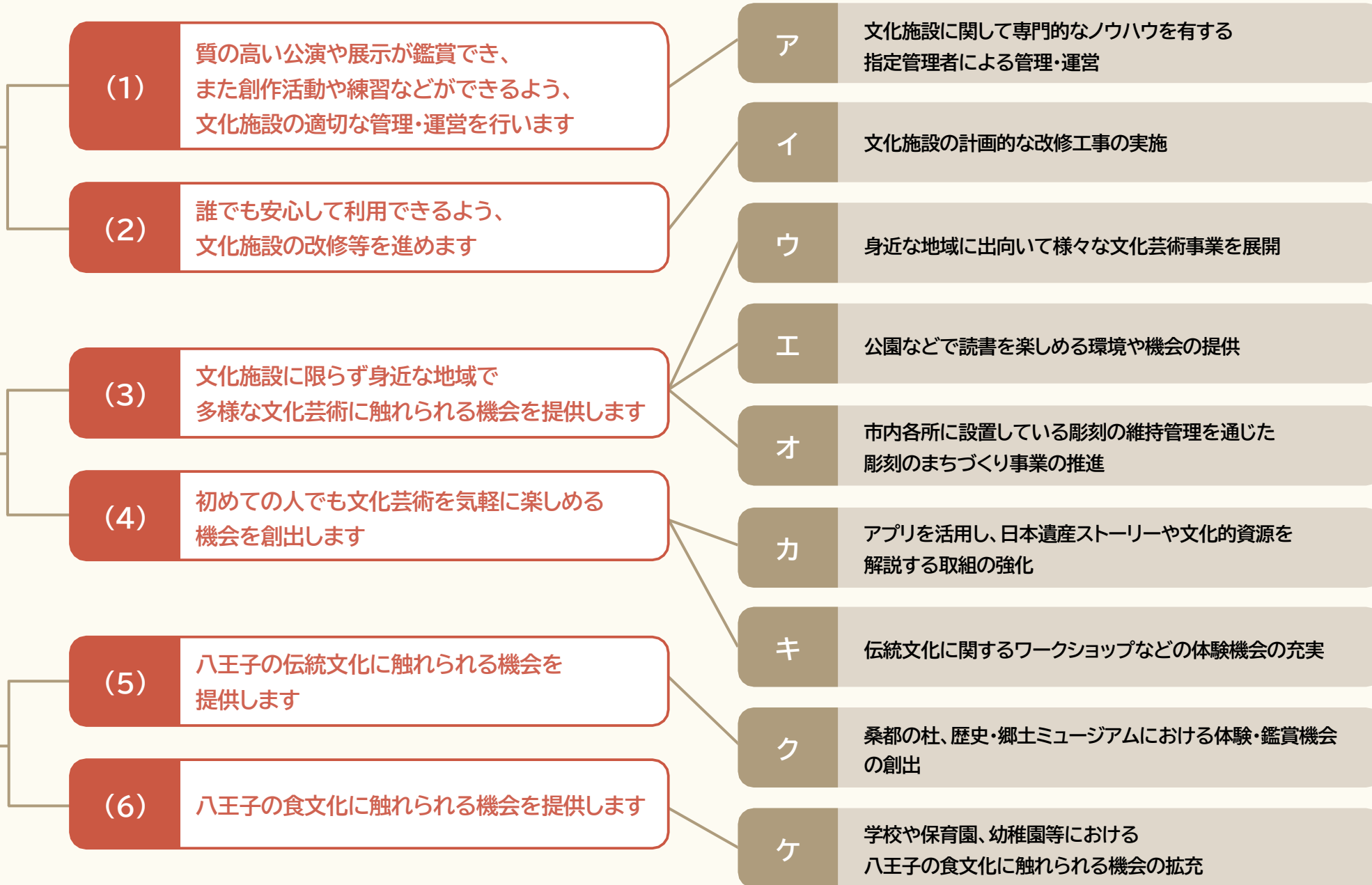
施策の方向性 3

八王子独自の
文化的資源を活用
した取組の推進



主な施策

取組例



05



市内の工場を活用した着物に関するトークイベント
「重宗玉緒×さんかく in FACTORY」(八王子芸術祭2025)

写真撮影：熊谷義朋

方向性 **5** 文化芸術がもたらす価値を

「ひろげる」

国の文化芸術推進基本計画(第2期)では、
文化芸術を「創造的な社会・経済活動の源泉」と位置付けており、
観光やまちづくり、福祉、産業等との連携を通じて創出される
新たな価値や経済波及効果が
文化芸術のさらなる発展に影響を及ぼす
好循環を形成することを目指しています。

八王子市においても、
文化芸術活動に携わる団体や個人と大学等、企業等との
多様な連携を通じた活動の活性化により、
地域の魅力向上とともに、
活性化や課題解決へつなげることが必要です。

市民向けアンケートでは、文化芸術の鑑賞後の動向として、「飲食店や周辺施設へ立ち寄る」といった回答が多く見られ、文化芸術事業は一定の経済効果をもたらすことがわかりました。また、美術系大学の学生向けアンケートでは学んだことを「お店などと協力した商品づくり」に活かしたいという回答が半数を占めました。

魅力ある文化芸術事業の展開や、学生や大学等と地域の企業や商店街との連携を通じて、まちづくりにつながる取組を推進することが必要です。

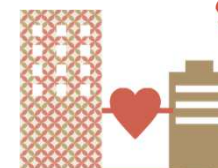


文化芸術を活かした
まちづくりにつながる取組が
求められています

現状と課題

文化芸術活動団体及び美術系大学の学生向けアンケートにおいて、「他団体と連携したい」、「他の大学との交流機会があるとよい」という回答が多く見られました。

市内では、文化芸術に関連する様々なイベントや取組が行われていますが、イベント間での連携やアーティスト間での交流を進めることでまちの魅力がさらに高まることを期待できます。



文化芸術活動を通じた
様々な交流による
まちの魅力向上が
求められています



地域の課題の
解決につながる
様々な連携が
求められています

多様化する地域の課題に対して、文化芸術やデザインを切り口としたアプローチを通じて、解決への道筋や新たな価値を生み出す取組が、様々な地域で行われています。八王子市においても、(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団や大学等、学生などの専門人材を活用して、文化芸術と他分野にわたる連携を促進する体制や仕組みづくりが求められます。

指標

自分のまちの魅力を、家族・友人・知人に
おすすめしたいと思う市民の程度

令和6年度(2024年度)

令和15年度(2033年度)

現状

48.7 ポイント

目標

58 ポイント

コラム

桑都日本遺産センター八王子博物館(はちはく)と福祉の連携した取組

はちはくでは、郷土資料の展示や解説だけでなく、高齢者の健康増進や認知症予防を目的に、収集している民具や懐かしい映像を囲み、昔の思い出を語り合う「回想法」を取り入れた催しを行っています。参加者間で昔のことを話し合うことで、心身の活性化につながるほか、高齢者あしん相談センターと連携して催しの案内をしてもらうことで、普段博物館にこない方が歴史や文化に興味を持つきっかけにもなっています。はちはくは令和7年度末に閉館しますが、この取組は新たに整備する歴史・郷土ミュージアムに引き継ぐ予定です。



回想法の催しの様子

2033年の目指す姿

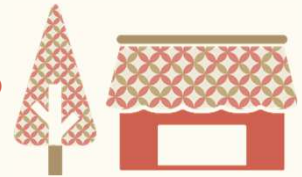
2033

文化芸術を活用し、
まちが
賑わっています

新規

施策の方向性 1

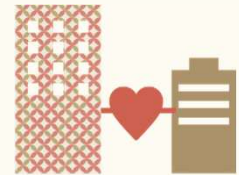
文化芸術を活かした
まちづくりにつながる
取組の充実



新規

施策の方向性 2

文化芸術を通じた
様々な交流による
まちの魅力の向上



新規

施策の方向性 3

アーティストなどによる
文化芸術やデザインを
切り口とした地域の課題解決
につながる取組の推進



主な施策

取組例



八王子芸術祭

八王子芸術祭は、多くの市民に文化芸術を身近に感じてもらうため、地域に根差した文化芸術事業を展開する取組です。隔年開催とし、市内5地域を10年かけて巡回します。地域ごとの特色を調査・発掘したうえで、それぞれの地域性を反映したコンセプトを設定し、それを基に現代アートや演劇、音楽など多彩な表現へとつなぎます。市民、アーティスト、企業など多様な主体が連携し、共に作り上げていくことで、文化芸術を身近にし、地域の魅力の再発見と郷土愛の醸成をめざします。

〇〇 八王子芸術祭2023

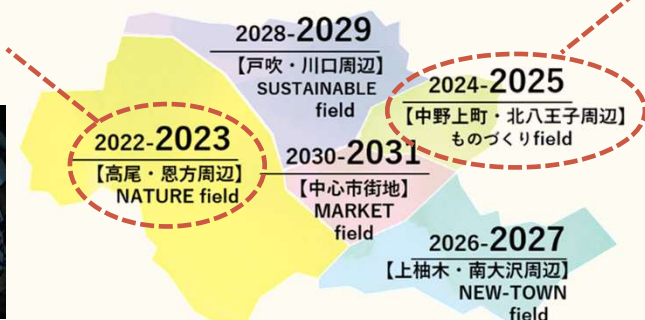
1回目は、八王子西部の高尾・恩方周辺地域で実施しました。豊かな自然のもと積み重ねられてきた歴史や文化の魅力に焦点を当てた作品の展示やイベントを開催しました。



アートピアノの制作



ドームシアターでの作品上映
©Takanori Tsukiji



〇〇 八王子芸術祭2025

2回目は、八王子北東部の工業地域を舞台に実施しました。工場跡などを活用して、八王子の織物の歴史や地域に根づく産業・人々の想いをヒントに制作した作品展示や音楽・演劇イベントなどを行いました。



工場跡を活用した作品展示
©pukarinpark



石川東公園を活用した作品展示
©pukarinpark

〇〇 みんなで作り上げる芸術祭

八王子芸術祭はアーティストだけでなく、市民、企業など地域の多様な主体が携わり、一緒に作り上げる取組です。「芸術祭サポーター」として参加した市民には、会場整備やアーティストの作品制作補助、会場案内など、様々な形で活躍していただきました。また、まちなかのカフェで作品を展示するなど、多彩な連携により地域を彩りました。



芸術祭サポーターが活躍
©Takanori Tsukiji



カフェでの作品展示
©横溝 岬

〇〇 芸術祭終了後も・・・

八王子芸術祭終了後もそれぞれの地域で市民自らの力により文化芸術活動が継続されています。西部地域では、木材や竹など、高尾地域の素材を活用して制作した楽器による演奏会が行われました。北東部地域では、芸術祭期間中、カフェやパンの販売店などでアート作品の展示を行いました。終了後もいくつかの店舗で、アート作品の展示や販売が継続されています。



地元の素材を使った楽器作り



©2025 春日晴吉 東京造形大学写真専攻
継続されているアート作品の展示販売